

環境モデル都市における平成22年度の取組の評価結果

富山市	人口:41.7万人、世帯数:20.2万世帯(平成23年3月末現在) 就業人口24.8万人(平成21年度)、市内GDP:2.0兆円(平成20年度) 面積:1241.9万km ² (うち森林面積859.8万km ²)
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成22年度の取組の総括

アクションプランで予定していた事業については、昨年度前倒しで行った事業があることや、一部、景気の悪化等の影響により、実施できなかった・計画値を達成できなかったものがあるため、進捗率は著しい評価にはならなかったものの、公共交通の活性化等の本市計画の中核を成す事業をはじめ、概ね計画通り進捗した。

しかしながら、H21年度に着手し、H22年度に本格的に運用開始されたいくつかの大型事業により、大きな温室効果ガスの削減効果が発現されるとともに、それらの事業について、全国からの多くの視察受入や全国レベルの大きな表彰を複数受賞した。

これにより、特に、「地域活力の創出」「取組の普及・展開」において、顕著な成果を上げている。

A : 施策進捗

2

【参考指標】

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分	
a)追加/前倒し/深掘り	2	8	16	算定式: ②/① *100	5	130~
b)ほぼ計画通り	1	47	47		4	110~
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	16	0		3	90~109
d)取り組んでいない	-1	0	0		2	70~89
計		① 71 ② 63	89		1	~69

(特記事項)

- 平成22年度の71取組のうち、追加・前倒し・深掘りを行ったものが8取組(11%)、計画通り進捗したものが47取組(66%)であったが、主要事業に特別の遅れはなかった。
- 公共交通の利用促進策として、ライトレール沿線のP&R駐車場の増設およびバス路線沿線にも新たに整備した。その結果、ライトレール利用者が増加するなど、自動車からの転換が図られ、温室効果ガス削減に寄与した。
- 公共交通が便利なまちなかや公共交通沿線への居住を推進するため、民間住宅の借上げによる市営住宅を4箇所整備するとともに、魅力を高めるため、生活関連施設の導入を図った。その結果公共交通の利用促進や中心市街地の賑わいが図られた。
- 住宅への太陽光発電設備をはじめ、省エネ設備について、当初計画以上の支援を行い、家庭部門での排出量削減に努めるとともに、環境意識の醸成を図った。
- まちなかや公共交通沿線への居住の誘導に係る住宅関連施策は、実施に至らなかったため、今後の方向性について検討した。

B : 温室効果ガスの削減・吸収量

3

【参考指標】

取組による効果	(t-CO2)	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO2)	(前年度比)
温室効果ガス削減量	32,300	+2.8%	H22実績(暫定値)(実排出係数)	338	+10.3%
温室効果ガス吸収量	1439万	+1.3%	H22実績(暫定値)(排出係数固定)	332	+3.9%

(特記事項)

- コミュニティサイクルや木質ペレット関連事業、エコタウン産業団地における廃棄物エネルギーセンターが整備され、前年度と比べCO2削減量が一定程度増加した。
- 住宅用太陽光発電の普及促進に関し、設置に対する補助に加え、売電量に応じた補助、グリーン電力証書事業等の多面的な導入支援策を講じたことにより、CO2削減量が一定程度増加した。
- LRTやコミュニティサイクルの導入など、車社会からの脱却を目指し、重点的に対策を講じた運輸部門の排出量は、前年度とは横ばいであるものの、基準年からは減少している。
- 総量として大幅なCO2増加に繋がった1つの要因として、夏季の記録的な猛暑により、主に家庭及び業務部門においてCO2が増加したことが挙げられる。
- 以上の取組等により、一定の削減効果が発現しており、アクションプランに掲げる目標を達成することが見込まれる。

C : 地域活力の創出

【参考指標】

5

中心商業地区の歩行者通行量	32,398人/日		
	前年度比5,174人増(1.2倍)		
路面電車市内線平均乗車人数	11,022人/日		
	前年度比771人増(1.1倍)		
コミュニティサイクル登録者数	968人		
コミュニティサイクル延べ利用回数	38,512回		

(特記事項)

- ・利用者の減少が続く地方ローカル鉄道を公設民営の考え方を導入し、全国初の本格的LRTシステムにより蘇らせた富山ライトレールの取組や市内電車環状線の本格的な運用により、市内電車全体の利用者数が約10%増加したことや、利用者へのアンケートでは、約9割の方が中心部のイメージが向上したこと、半数の方が外出、滞在機会が増えていること、来街頻度や消費金額も2倍に増加しているとの結果がでており、中心市街地の活性化に寄与している。
- ・加えて、アジア初の広告収入を主としたコミュニティサイクルの導入、中心市街地活性化事業などの実施により、中心市街地の魅力が高まり、固定資産税や都市計画税の増に繋がっている。
- ・中心市街地では新たな再開発事業が複数進められており、更に魅力が高まり、居住が促進されるとともに、交流人口が増加するなど、地域経済も活性化している。(中心部にマンションが複数建設されているが、完成前に売上の状態である)

D : 地域のアイデア・市民力

【参考指標】

4

全国レベルの表彰の受賞数	6件		
チームとやまし参加者数	19,524人		
森林づくりボランティア会員数	747人		

(特記事項)

- ・公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを目指す「LRTネットワークの形成」は、地方都市の優良事例として、低炭素都市づくりベストプラクティス大賞の他数々の賞を受賞するなど、各方面で高い評価を受けている。
- ・急流河川が多く、全国第2位の包蔵水力を有する地理的特性を活かし、小水力発電所を2箇所整備している(H23年度完成予定)。約214世帯分の年間電気使用量(773,500kWh)を発電するとともに、加えて、公共交通沿線で地域の憩いの場として親しまれている農業用水沿いに設置し、環境教育やエコツアー等の学習の場として活用している。
- ・市民総参加型の温暖化防止行動である「チームとやまし」の取組では、事業者や学校等の332団体19,524人の多くの市民により取り組みが進められており、特に最近ではより小さな家庭単位での参加申込がある等、地球温暖化問題や省エネに対する関心・取組の意欲が向上している。

E : 取組の普及・展開

【参考指標】

4

ライトレールの高齢者の利用(開業時と比較)	3.5倍(70歳以上)		
車からライトレールへの転換	25%		
視察団体数(モデル都市)	31団体(324人)		
視察団体数(コンパクトシティ)	49団体(414人)		
視察団対数(コミュニティサイクル)	47団体(238人)		

(特記事項)

- ・市内電車のLRT化や環状線化により、自動車に依存し、公共交通が衰退するという地方都市共通の課題から脱却するモデルとなるとともに、市民からも高い評価を受け、高齢者や自動車からの転換による利用者が増加するなど、環境にも高齢者にもやさしい公共交通として定着してきた。
- ・全国初となるITを活用するとともに、商業広告による収入によって事業コストを賄う先進的な運営方法を導入したコミュニティサイクルの取組には、全国はもとより、海外からの自治体、企業、報道関係等の視察が相次ぎ、他都市では、本格導入に向けた実証実験などが行われている。